

高校との連携事業について

1 R2 白樺学園高校との包括連携事業の振り返り (R3. 3. 16 議運資料抜粋)

○意見交換概要

(1) 協定の趣旨に沿った「内容」であったか

・協定趣旨

甲と乙の人的、知的資源の交流、活用を図ることで、双方の活動の充実・発展に資することを目的とする。

・テーマ 「地方自治を学ぶ～議会ってどんなところ？」

① 議事堂見学・議会体験

② 「議会ってこんなところ」～議会の仕組みなどを説明

(2) 対象者、人数について

(3) 開催までの準備（体制・期間）は適切だったか

(4) 実施の体制・対応は適切だったか

(5) 今後の展開・展望について

○意見交換のポイント

- ・学習を行ってから臨むと良かった
- ・例えば芽室町の人口や歳入・歳出から、お金の使い方について議会があって「〇〇〇に繋がった」のような事例があると、議会体験に入り易い面がある。
- ・事前に、学校に来ていただくような機会があれば、なお良い。
- ・そのクラスを訪問した議員が、議会体験の場で説明や担当することで、より印象が強くなる。

—今後の展開として—

- ・1年生は、議場体験
- ・3年生は、議員が学校へ出向き意見交換など授業参加
- ・実施時期は早い時期。

(例) 前期考査後—10月上旬に3年、後期の中間考査後—12月上旬に1年など。
時間を確保しやすいのは2月。候補時期は、10・12月または2月となる。

2 R2 芽室高校生徒との意見交換会の振り返り (R3. 1. 15 議運議案)

(1) 目的に沿った開催内容・要旨であったか

- ・目的 「住民への議会活動の認知度向上」を図るとともに「若い世代の考えを政策に反映させ」「まちづくりを考え・参加する機会」のきっかけづくりとする。
- ・要旨 「コロナ時代を生きる～私たちはこれからどう生きていくのか！」

(2) 対象者、人数は適切だったか

- ・芽室高校新聞局員 ※今回の実質参加者は9人

(3) 開催日程・時間等は適切だったか

- ・日程：12月23日(水) 16時～17時15分 ※定期試験後・冬期休業前

(4) 実施方法は適切だったか

- ①オンラインによる実施(事前準備から当日までの間)
- ②オンラインによる実施(当日)
- ③生徒への事前資料の配布 → (事前閲覧をしたうえで) → ミーティング参加
- ④前段の趣旨説明：議運委員長説明-「議会はなぜ高校生と意見交換をするのか」
- ⑤意見交換：3グループ。生徒3人と議員5人程度との意見交換。
- ⑥進行管理：議運副委員長説明-パワポ資料を使用
- ⑦その他

—今後の展開として—

- ・今後もテーマを変えながら継続実施(例/生徒の実体験：ブラックアウト、コロナ)
- ・オンライン活用はタイムリーかつ時代に即した有効な成果(さらなる活用能力の向上)
- ・事業実施5年を経過。他の先進事例(地元高校との連携)では授業の中で事業実施。
- ・参加生徒の裾野拡大は要検討事項。高校の意向を尊重しつつも新たな展望の時期。
- ・これまでは事業の定着が目標。次のステップの目標設定の時期。